



樹木いきいき講座 <その14> 3班 藤原満男



ストーブ用の薪は、ひと冬でだいたい4立米消費する。今年は7月に入っても5分の1程しか集められなかった為、義兄の山のヒノキ林の間伐材を使うことにした。

薪材にヒノキを使うと言ったら、馬鹿にされるのがオチ。油分の多い針葉樹は、火力が強い反面ススが多く煙突を詰まらせる。窯が早くだめになる。

義兄の山は植えて40年以上一度も間伐していない為、草が生えていない。生長途中で出遅れた木の立枯れが目立つ。太い松が寝返りして倒れている。しかし隣接するサクラやコナラ、クリ、ホオノキは枯れずに頑張っ

ているが、前に、シイタケ用に伐ったコナラの切株から萌芽がない。北と北東に面している為かとにかく湿気が多い。葉枯らしで軽くしてからと思ったが早めに持出してから乾かすことにした。

因みに、自然に生えている樹木を伐採したものを『生木』と呼び、約50%が水分。薪にするには伐採した生木を使用に適した長さに切り、割って表面積を多くし、よく空気に触れさせて乾燥させ、この状態で8ヶ月以上乾燥させる。広葉樹（ナラ・クヌギ・サクラ・アカシア・クリ・ケヤキ等）は着火しにくいですが、火持ちがとても良く、特にナラ・クヌギは薪を継ぎ足す必要がぐんと減る。就寝前等に十分にくべてある程度空気を絞っておくと朝まで熾火^{おきび}が残り、着火材を使用しなくても焚き付の様な細い枝を入れるだけですぐに火を起こすことができる。火持ちが良い事から灰の出る量も減る。